

「ひと」がつながり、「ひと」が輝き 「ひと」が潤う

感動生まれる吉野町を目指し

吉野町長

中井章太

やかに新春をお迎えのことと、 ざいます。町民の皆様には、お健 送っていただいたことに感謝申 策の両立を図り、日々の生活を で、社会経済活動と感染防止対 ては、行動制限を強いられる中 ます。町民の皆様におかれまし ルス感染症と向き合いながらの 接種をはじめ、新型コロナウイ 心よりお慶び申し上げます。 一年であったように感じており 2021年もコロナワクチン 新年あけましておめでとうご

認され、まだまだコロナと共存 した町政運営が続くことが予想 クロン株』の感染が国内でも確 年末から新たな変異株『オミ

で、引き続き感染症の基本的な きる環境を整えてまいりますの 種に向けても、安心して接種で 防止策の徹底をお願い致します。 されます。3回目のワクチン接

■幸せにつながる地域交通

ス)の複合的な乗合バス運行が 時定路線と予約型(デマンドバ 4月からは効率的で利便性の高 としましては、人の幸せにつなが 策定され、まちの将来像「ひと」 す い公共交通システムとして、定 る交通モビリティの実現に向け タートしました。具体的な事業 が潤う感動生まれる吉野町がス がつながり「ひと」が輝き「ひと」 指針となる第五次総合計画が このような状況下ではありま が、持続可能なまちづくりの

始まります。

■吉野さくら学園開校

点から、町の方向性を示してま アシリティマネジメント(公共施 見を参考に、中期財政計画とフ 調査の提案、地域懇談会での意 活用においても、サウンディング それに伴う2校の小学校跡地利 をつなぐ教育がスタートします。 開校され、9年間の学びと生活 設の管理・運営)、官民連携の観 来を担う子どもたちを育む小中 いります。 貫教育校『吉野さくら学園』が また、4月からは吉野町の未

■環境政策の今後

まいります。

御所市、田原本町、五條市で構 するごみ処理行政については、 そして、町民の暮らしに直結

> 政策にも、積極的に取り組んで ニュートラル実現に向けた経済 きました。2050年カーボン 証実験運行も実施することがで 力で取り組んでまいります。 なゴミ処理の実現に向けて、全 員会の提言書にもある持続可能 いて協議を始めることとなり と共同で、E V (電気)バスの実 向けた取り組みとして、環境省 務組合」と可燃ゴミの処理につ 成する「やまと広域環境衛生事 般廃棄物処理のあり方検討委 さらに、脱炭素社会の実現に

すことを祈念し、新年のご挨拶 とさせていただきます。 がつながり、輝く一年になりま 結びに、町民の皆様一人一人



新年のごあいさ

吉野町議会議長

野木 康司

ざいます。皆様には、健やかに新 かいご支援とご協力を賜り、厚 上げます。旧年中は、町議会に温 年をお迎えのこととお慶び申し く御礼申し上げます。 新年あけましておめでとうご

一日々の取組みに感謝

で年が明け、そして幕を閉じた 日々を送られたことと思いま 活にも気を配り大変不自由な 感染対策をされた上に、日常生 スクの着用、手指消毒等十分な には、ワクチン接種が進む中、マ い新型コロナウイルス感染対策 昨年も引き続き、まだ収束しな 一年でありました。町民の皆様

> で本町では、感染拡大を最小限 す。 す。皆様の日々の取組みのお陰 に食い止められたと思っていま

に向けて ■新型コロナの影響からの回復

ます。 油断はできません。引き続き自 していただくようお願いいたし 分でできる感染対策をしっかり 数も激減しましたが、まだまだ た。昨年秋から全国的に感染者 精一杯取り組んでまいりまし 交付金の活用に、議会としても 守るため、国のコロナ対策臨時 町民の皆さんの命と暮らしを

たな国の政治体制がスタートし 議院が解散され、選挙を経て新 国政では、昨年10月14日に衆

令和4年

吉野町長·吉野町議会議長

です。 のあらゆるところで大きな影響 ステージへ 強い国力を回復して欲しいもの あふれる社会経済活動が戻り を受けました。一日も早く活気 ました。コロナ禍の中、国民生活 ■改革が求められる新たな

本町では昨年、今後10年間を

ています。人口減少・少子高齢化 べき時であると思います。慢性 が進む過疎地域においては やかな行政サービスが求められ 種多様なニーズに応えたきめ細 的な財源不足の中において、多 新たなステージへの転換を図る 見据えた『第5次吉野町総合計 吉野町には「改革」が求められ 画』がスタートしました。今こそ

> ています。 解決することが難しくなってき 様々な地域の課題を行政だけで

■行政・議会・住民の力を結集

え、次世代に誇ることのできる 野町の将来のために「何をなす べきか」「何ができるのか」を考 吉野を創造していきましょう。 さんの力を結集して総合力で吉 行政と議会、そして住民の皆

ます。 びに町議会に対しまして、一層 ご指導ご協力を賜りますようお 申し上げ、新年の挨拶といたし 願いを申し上げますとともに 皆様のご健康とご多幸をお祈り 最後になりましたが、町政並



今こそ

新たなステージへの転換期

かるたで楽

元~を知

子どもからお年寄りまで、誰でも楽しめ、遊びながら学べる「かるた」にしよう

何気なく聞いた地元の言い伝えや地名の由来。それらの"いわれ" をもっと知りたいと思った。そう話すのは、この「六田かるた」を発案 した岸本さん。近所のお年寄りなどから聞いたことをノートに書き 溜めていた。聞いたこれらの話を「自分だけのものにしておくのは もったいない。と友人の北川さんに声をかけた。彼女も以前から、 六田の魅力や歴史の掘り起こしを何らかの形に残したいと思って いた。そんなとき、ある新聞広告が岸本さんの目に留まった。かるた で内容を伝える広告だった。



岸本直子 さん







▼何年もかけて聞き取った内容を メモした岸本さんのノート、付 箋だらけの北川さんの本『憧憬 古代史の吉野』、かるたの原稿

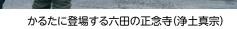




ふるさと吉野に愛着心を

集めた資料を50音に当てはめていくのは悩みながら の作業だった。2人は考えを出し合い、ぜひと思うエピ ソードをピックアップし、1年ほどで何とか完成にこぎつ けた。「かるた」の実用化にはまだ至らないが、吉野らし く木製かるたにする案や、添付する解説書を作ろうとい う案もある。地元のことを知ることで、故郷を愛する気 持ちを持てるような取り組みや気運が、町全体に広が っていけばいいのにと2人は話す。





2人の「思い」

2人とも結婚後、六田に住んでいるが「六田のことを知ら なかったから、六田のことをもっと多くの人に知ってほし い」。彼女たちだからこそ、そう思うのだ。

「地域に住み、地域を守っていく人を大切にし、その人の 人生が豊かなものになるように。」

「吉野から離れても、素敵なところで育ったのだとの思い を持ち続けてほしい。」2人のそんな郷土愛が、この「か るた にはあふれている。